

交換留学によって成長したこと

張瑜庭（チョウ ユテイ）（台湾・国立台湾大学）

私が日本へ交換留学にきたのは、日本人と一緒に授業を取ることを通じて、台湾大学にない授業内容を習い、日本語を上達できるかつ日本文学や語学の知識を身につけるよう、自ら挑戦するためでした。

お茶大の授業は大まかに、学部生の授業と留学生の授業とで分かれています。私はこの一年間、学部生の授業で文教育学部言語文化学科日本語・日本文学コースの授業、英語の授業、全学科を対象とする LA 科目を少し履修したり、聴講したりしました。最初は先生の言う内容があまり理解できず緊張しましたが、文教育学部言語文化学科日本語・日本文学コースの授業を通じて、語彙論分野と近代文学に関する論文にたくさん触れたり、他の日本人学生の発表を聞いたり、自分も興味のあるテーマについてレポートを書いたりしました。特に、「日本近代文学論特殊講義Ⅱ」、「日本語学特殊研究」、「日本近代文学論特殊研究」で専門的な知識を学びました。LA 科目は比較的に楽ですが、「言語の習得と発展」という授業で心理学と言語学を対象に異なる領域の知識を合わせて考えることができます。また、「英語コミュニケーションⅢ」という授業も取りました。とても面白い授業でした。

一方、留学生の授業で、日本語演習、日本事情演習、特設日本語を履修しました。日本語演習ⅤAで学術的な文章を読み、文章の構成などを学びました。日本事情演習Ⅱで東京の歴史について学びました。日本事情演習Ⅲでビジネス日本語を習い、模擬面接を通じて自己分析をやりました。日本事情演習Ⅳで日本人学生と一緒に日本での異文化間交流現状を学び、日本人やほかの外国人と意見を交換して交流しました。特設日本語上級Ⅰで日本語の新聞を読み、各国の事情を話し合いました。



学習の面以外にもいろいろ成長したと思います。寮の生活はほぼ一人暮らしのようだったので、自炊、掃除、洗濯を通じて自分を管理することができるようになりました。また、来たばかりの時に、住所の登録、口座の開設、携帯の購入などの手続きができたのは、付き合ってくれたチューターが協力してくれたからでもあります。自分に対しての達成感も得ました。さらに、一人でテレビのコンセントを繋ぐこと、飛行機のチケットの購入、郵便配達の人に荷物を送ってもらうことなどを通じて、一人前になったと思いました。

もっとも大切にしたい思い出は、ここで知り合った人たちとの出会いです。授業で一緒にお互いの文化や考え方を理解しあい、新潟への旅行、日研生との茶話会など、国際課やグローバル教育センターが主催したイベントを通して仲良くなりました。自分ももっと思いやりのある人、考え方の視点が広い人、自己反省できる人になりました。

